

「住宅における防犯対策についてのアンケート調査結果」および 「窓ガラス用防犯アラームのテスト結果」について

一般住宅において、空き巣などの被害が依然として多く発生しており、北陸地方では住宅の鍵をかけずに盗難被害に遭う「無施錠被害率」が全国に比べてかなり高くなっています。

また、最近、県などでは安全安心なまちづくり条例を制定するなどして、県民や行政などの役割を定めてきています。

このような状況を踏まえ、北陸三県（石川県、福井県、富山県）の消費生活（支援）センターでは、標記の調査およびテストを実施しましたので、その結果を次のとおり情報提供します。

記

1 住宅における防犯対策についてのアンケート調査結果

- (1) 調査期間 平成20年10月～平成21年1月
- (2) 調査対象 北陸三県の県民 2,306人
- (3) 調査事項
 - ① 住宅における防犯対策への意識
 - ② 住宅における防犯対策の現況
 - ③ 玄関などの出入り口の錠の種類
 - ④ ドアや窓の防犯アラームの設置状況
 - ⑤ 最も有効と思われる住宅の防犯対策
 - ⑥ 防犯対策をしていない理由
 - ⑦ 防犯情報の認識
 - ⑧ 防犯性能の高い建物部品（CP部品）の認知度、設置状況
 - ⑨ 住宅における防犯対策についての意見、アイデア、テスト要望など
- (4) 調査結果

別紙1「住宅における防犯対策についてのアンケート調査結果（概要）」のとおり。

2 窓ガラス用防犯アラームのテスト結果

- (1) テスト期間 平成20年12月～平成21年2月
- (2) テスト対象 窓ガラス用防犯アラーム12銘柄
- (3) テスト事項
 - ① 窓ガラス用防犯アラームの仕様、使用性
 - ② 窓ガラス用防犯アラームの音圧、鳴動時間、検知器感度など
- (4) テスト結果

別紙2「窓ガラス用防犯アラームのテスト結果（概要）」のとおり。

住宅における防犯対策についてのアンケート調査結果（概要）

1 目的

一般住宅において、空き巣などの被害が依然として跡を絶たない現状にあり、また、北陸地方では住宅の鍵（かぎ）をかけずに盗難被害に遭う「無施錠被害率」が全国平均に比べてかなり高くなっている。また、最近、各都道府県などでは安全安心なまちづくり条例を制定するなどして、県民や行政などの役割を定めてきている。

このため、北陸三県消費生活センターでは、住宅における防犯対策の状況や住宅用防犯用品の設置状況・有効性などについて、アンケート調査を行い、その結果を県民に情報提供することにより、県民生活の安全・安心の一助に資することとする。

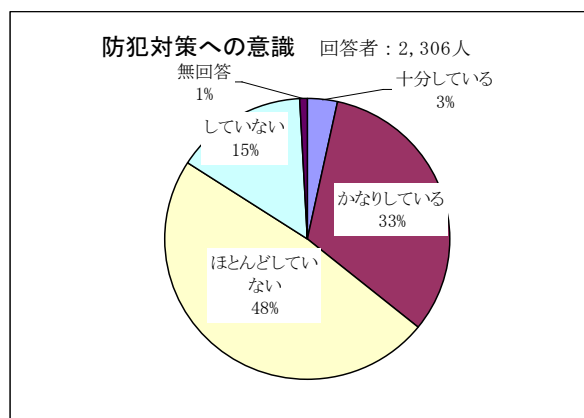
2 調査期間および対象者

平成 20 年 10 月～平成 21 年 1 月 北陸三県の県民 2,306 人

3 調査結果および評価

(1) 住宅における防犯対策への意識

「ほとんど対策をしていない」が 48% と約半数を占め、「対策をしていない」15% を合わせると 63% の人が住宅での防犯対策は不十分であるとの意識であった。

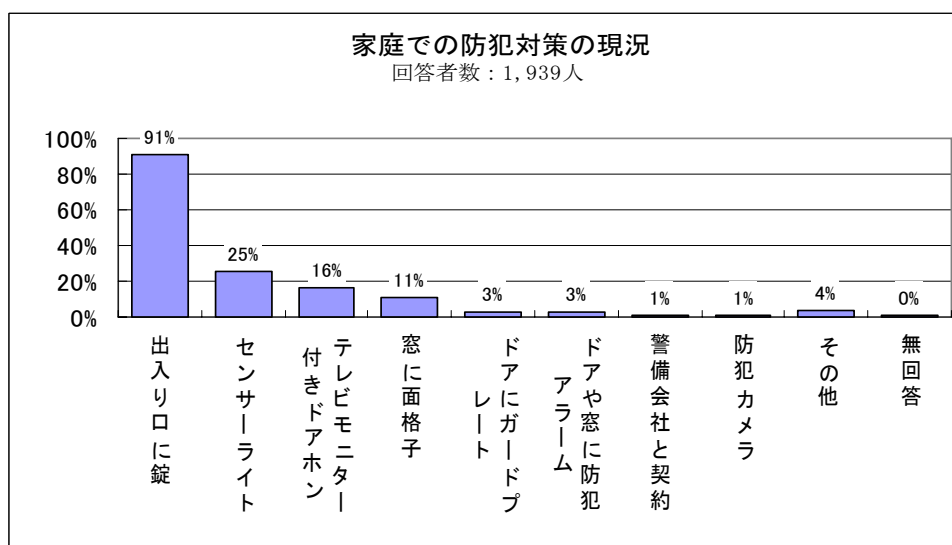


(2) 住宅における防犯対策の現況

何らかの防犯対策をしている人（1,939人）に回答（複数回答）を求めたところ、「出入りに錠」が 91% と最も多く、次いで「センサーライト」25%、「テレビモニター付きドアホン」16% の順であった。

なお、空き巣などの侵入者の最も多い手口は窓ガラス破りといわれているが、「ドアや窓に防犯アラーム」を取り付けている人は 3% と非常に少なかった。

防犯アラームなどは比較的低価格で市販されており、家庭で容易にできる防犯対策の一つとして、積極的に取り付けを進めていくことが望まれる。



(3) 玄関などの出入り口の施錠の種類

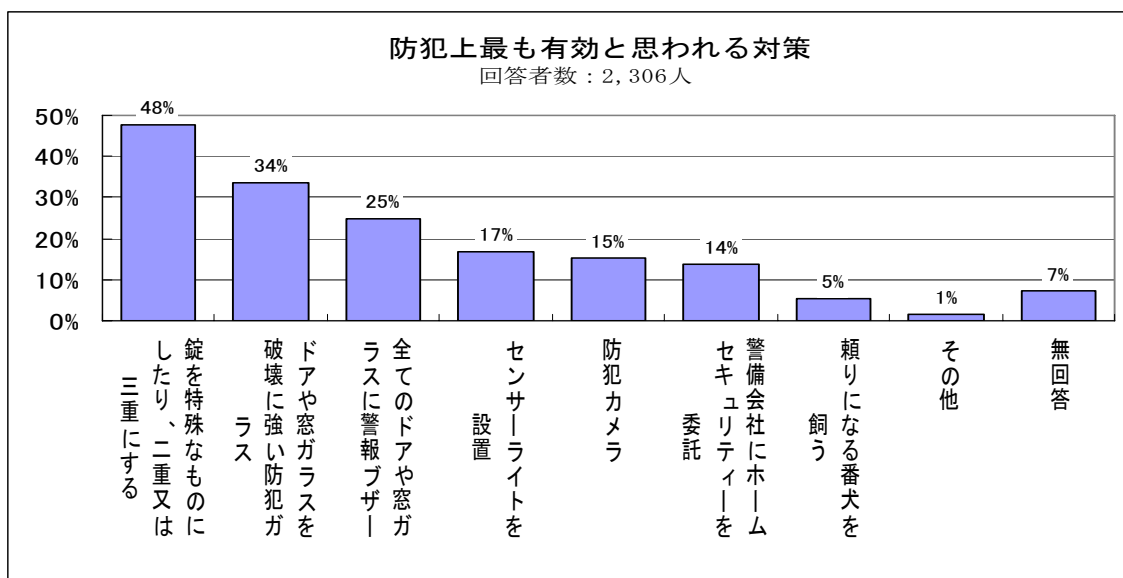
「玄関をはじめ勝手口など出入り口に錠を設置している」と回答した1,770人の玄関などの出入り口の施錠の種類（複数回答）は、「シリンダー錠」が93%と大多数を占めた。他のリモコンロックやテンキーロックなどは1%以下とごく僅かであった。

(4) ドアや窓に防犯アラームの設置

「ドアや窓に防犯アラーム（警報ブザー）を設置している」と回答した53人の防犯アラームの種類（複数回答）は、「ドアや窓ガラスの振動または開閉で警報音を発するアラーム」が49%で最も多く、次いで「ガラスなどが割れたときだけ鳴る窓用防犯ブザー」が17%であった。

(5) 住宅の防犯上最も有効と思われる対策

住宅の防犯上最も有効と思われる対策（2つまで選択回答）は、「錠を特殊なものにしたり、二重、三重にする」が最も多く48%を占め、次いで「ドアや窓ガラスを破壊に強い防犯ガラスなどにする」が34%、「全てのドアや窓ガラスに警報ブザー」25%、「センサーライトを設置する」17%、「防犯カメラを設置する」15%、「警備会社にセキュリティを委託する」14%、「頼りになる番犬を飼う」5%の順であった。



(6) 防犯対策をしていない理由

「ほとんど対策をしていない」と「対策をしていない」を合わせた1,460人の防犯対策をしていない理由（複数回答）は、「費用がかかる」が41%と最も多く、次いで「どのような対策が有効かわからない」が28%、「どんな対策をしても被害に遭うときは遭う」23%、「必要性を感じていない」22%、「面倒である」17%、「自分ではなかなかできない」16%の順であった。

年代別で比較すると、いずれの年代も「費用がかかる」が最も多く、次いで「どのような対策が有効かわからない」であった。ただし、若い世代ほど「費用がかかる」の占める率が高かった。

(7) 「最も多い侵入手口が窓ガラス破りである」ことへの認識

空き巣などの「最も多い侵入手口が窓ガラス破りである」ことについては、「だいたい知っている」が37%と最も多く、次いで「知っている」が33%であり、合わせると7割の人が認識していた。

(8) 「無施錠の被害率が高いこと」の認識

「無施錠の被害率が高いこと」については、「知らない」と答えた人が45%と約半数の人が認識していなかった。

(9) 防犯性能の高い建物部品の認知度

防犯性能の高い建物部品（CPマーク入りのドア、窓、錠などのことで、CP部品ともいわれている）の認知度については「知っている」が5%と非常に少なかった。今後、防犯対策の向上を目指して、行政や民間団体などが一層の普及啓発を図る必要があると思われる。

※ CPは英語の「Crime Prevention（防犯）」の略



CPマーク

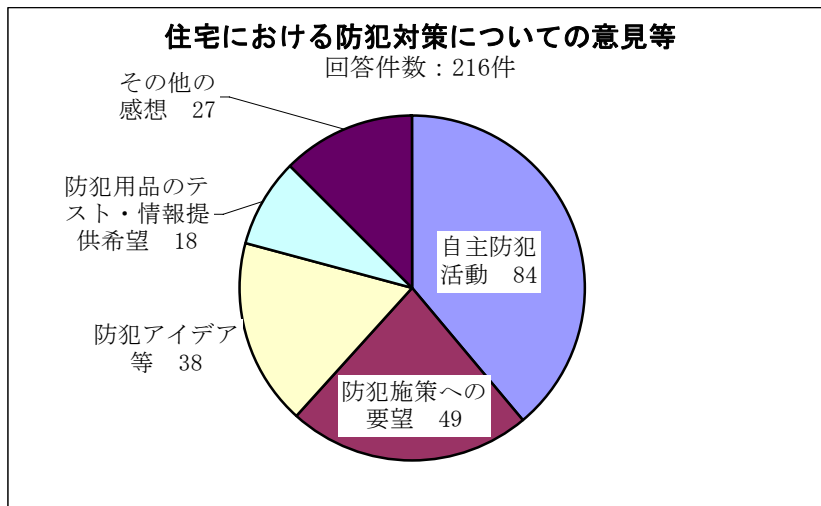
(10) 防犯建物部品（CP部品）の設置

「知っている」と答えた105人のCP部品の設置状況は「設置している」および「一部設置している」を合わせると31%であったが、アンケート調査回答者全体（2,306人）からみると1.4%であり、CP部品を設置している人はごく僅かであった。

(11) 住宅における防犯対策についての意見など

住宅における防犯対策についての意見などが216件あり、「自主防犯活動」が84件と最も多く、次いで「防犯施策への要望」49件、「防犯アイデアなど」38件、「防犯用品テスト・情報提供希望」18件であった。

この結果から、防犯は、自ら心掛け、実行しなければならないと思っているが、行政などの防犯施策による指導的役割も期待していると考えられる。



ア 「自主防犯活動」の内容

自主防犯活動の主な内容は、地域・近隣での防犯活動連携や家庭での防犯上の心掛けの実行などであった。

イ 「防犯施策への要望」の内容

行政などに対する防犯施策への要望の主な内容は、防犯対策の啓発・情報の提供、地域での街灯などの一層の整備、防犯教育（防犯講習会など）、警察などの防犯パトロールの強化などであった。

ウ 「防犯アイデア」の内容

家庭や地域における防犯対策のアイデアなどの主な内容は、住宅用防犯用品・設備の活用や家庭での防犯の心掛けなどに関したものであった。

エ 「防犯用品のテスト・情報提供希望」の内容

住宅で使用する防犯用品のテストや情報提供の希望の主な内容は、住宅用防犯用品や設備のテストや情報提供を求めるものであった。北陸三県の消費生活センターでは、今回、同時に窓ガラスなどに設置する防犯アラームのテストを実施しており、情報提供する。

なお、今回取り組めなかった項目についても、今後、テストや情報収集などにより、適切な情報提供に努めていきたい。

4 消費者へのアドバイス

アンケート調査結果および評価から、次のことに留意して、家庭や地域での防犯対策に積極的に取り組みましょう。

(1) 家庭での防犯の心掛け

- ① 在宅時でも施錠し、来訪者があった時も安易にドアを開けず、必ず相手を確認しましょう。
- ② 短時間の外出時でも施錠し、忘れがちなトイレや浴室の窓などの施錠も確認しましょう。
- ③ 合鍵は発見されやすいところ（郵便ポスト、植木鉢など）に置かない。また、家の周りには脚立など、足場になるものは置かないようにしましょう。
- ④ 留守中であることや、一人暮らしがわからない工夫をしましょう。

(2) 家庭での防犯設備の強化

- ① 玄関などの出入り口の錠を二重にする、防犯性の高い建物部品（CPマーク入りのドア、窓、錠など）に取り替えるなど、セキュリティを高めましょう。
- ② 屋外灯（センサーを含む）の設置や、侵入者の手口で最も多い、窓ガラス破りを防ぐため、窓用防犯アラームや補助錠、防犯ガラス（2枚以上のガラスに樹脂中間膜を挟んだもの）を取り付けましょう。
- ③ 警察庁では、空き巣などによる住宅などの建物への侵入犯罪の現状と最新の対策などをウェブサイトである「住まいる防犯110番」で紹介していますので、参考にしましょう。

(3) 地域での防犯活動

- ① 侵入者が嫌うのは「地域の目」です。「あいさつ運動」の実施や、普段見かけない人には一声かけるようにしましょう。
- ② 地域（町内会など）での防犯講習会や、防犯ボランティア（パトロールなど）など、地域の「自主防犯活動」に参加しましょう。
- ③ ゴミ出しのルール（日時、分別）などを守り、路上駐車はやめましょう。（空き巣などは、無秩序で地域コミュニティが希薄な地域を好むため）

窓ガラス用防犯アラームのテスト結果（概要）

1 目的

住宅などの防犯グッズの一つに「窓ガラス用防犯アラーム」がある。この防犯アラームは、窓を破って侵入する空き巣などを強烈な警報音で威嚇し、侵入行為を止めさせる効果がある。また、比較的安価であり、両面テープなどで容易に取り付けられる商品が市販されている。

そこで、市販されている窓ガラス用防犯アラームの仕様や性能テストなどを行い、消費者が適切な選び方、取扱いができるよう情報提供する。

2 対象品

平成20年11月から12月にかけて家電量販店、ホームセンターで購入した12銘柄を対象品とした。



対象品仕様一覧

No.	検知種類	電源 ^(※1) (種類×数)	取付け方法	セキュリティ ステッカー	音圧 (dB;デシベル)	警戒中表示 (ランプの点滅 など)	電池交換表示 (ランプの点滅 など)
1	振動	単4×2	両面テープ	なし	約110	なし	なし
2	衝撃・破壊	LR44×3	両面テープ	[警報装置作 動中]	95(20cm)	なし	点灯(赤)
3	振動・破壊	LR44×3	両面テープ	なし	97(1m)	なし	なし
4	振動・破壊・開閉	LR44×3	両面テープ	[警告]	約90(1m)	なし	点滅(赤)
5	振動・破壊	LR44×2	両面テープ	[WARNING]	なし	なし	なし
6	振動	LR44×3	両面テープ	[警戒中]	100(30cm)	夜は点灯(赤)	なし
7	振動・破壊・開閉	LR44×3	両面テープ	[警戒中]	約90(1m)	なし	なし
8	破壊・衝撃・開閉	CR2032×1	両面テープ	[防犯装置作 動中]	約90(50cm)	なし	点滅(赤)
9	破壊・衝撃・開閉	CR2032×1	両面テープ	[警報装置作 動中]	約90(1m)	点滅(赤)	なし
10	破壊・振動・開閉	CR2032×1	両面テープ	[防犯装置作 動中]	約90(1m)	なし	点滅(赤)
11	破壊・開閉	CR2032×1	吸盤	[警戒中]	90以上 (50cm)	点滅(赤)	点滅(赤)
12	破壊	CR2032×1	両面テープ	[警戒中]	85(1m)	なし	テストモードで 音

(※1) 単4は単4形アルカリ電池(1個1.5V)、LR44はアルカリボタン電池(1個1.5V)、CR2032はリチウムボタン電池(1個3V)

3 テスト実施期間およびテスト項目

平成20年12月～平成21年2月に仕様や使用性、アラームの音圧・鳴動時間、検知器感度などをテストした。

4 テスト結果および評価

(1) 仕様・価格など

窓ガラス用防犯アラームは、家電量販店、ホームセンターなどの店頭で陳列しており、容易に購入できるものであった。購入した12銘柄の価格は580円から4,460円の範囲であった。

検知種類は、「振動」「破壊」や「衝撃・破壊」などの組合せもみられたが、「振動」や「衝撃」には「破壊」も含まれるので、実質、「振動」7銘柄、「衝撃」3銘柄、「破壊」2銘柄に分類できると考えられる。

また、その中で窓を開けるとアラームが鳴動する「開閉」が6銘柄あり、5銘柄は付属マグネットと検知器本体（以下「本体」という。）が一定距離以上になると検知するもの、1銘柄は本体の側面にボタンがあり、窓枠がこのボタンを押して検知するものであった。

(2) 使用性など

① 本体の取付け方法は1銘柄が吸盤で固定するものであったが、それ以外は全て両面テープで固定するものであった。吸盤で固定の場合は取り付け直すことが可能であるが、両面テープの場合は、取り付け直すことが難しいため、取り付けの場合は、取扱説明書の取付け位置を調べ、窓の開閉時に当たらないか、アラームが鳴動するかなど、確認してから取り付ける必要があると思われた。

② 本体を取り付けた場合、屋外から〔警戒中〕、〔防犯装置作動中〕などの文字が見えるセキュリティステッカーは、10銘柄にあった。日本語だけではなく英語などの外国語をあわせて記載しているものもあった。侵入者の威嚇に効果が高いと思われた。

③ 電池交換時期であることをランプの点滅や音で知らせるものが6銘柄あった。他の銘柄にはなく、定期的に電池が切れていないかを確認する必要がある。

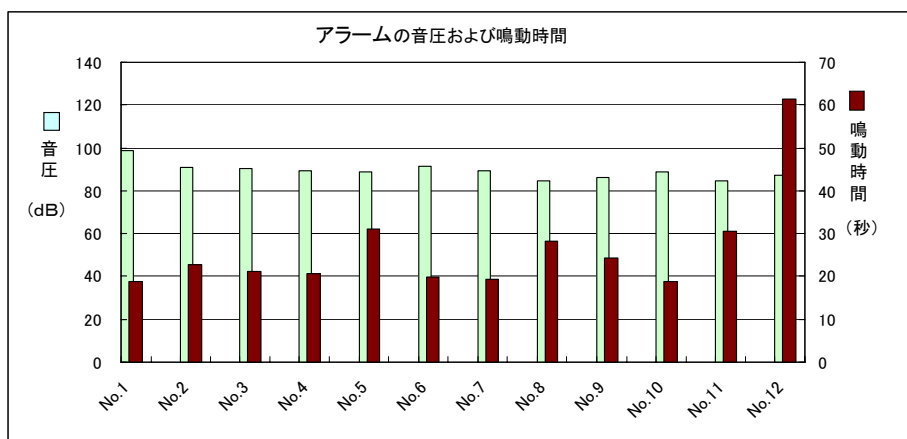


<セキュリティステッカー>

(3) アラームの音圧および鳴動時間

音圧表示は11銘柄にあったが、測定距離がばらばらであり統一されていなかった。参考とする(社)日本防犯設備協会技術標準^(※2)（以下「標準」という。）では、本体から1m離れた防犯警報音として機能を果たす音圧は85dB以上を推奨し、かつ、聴覚障害の要因となる120dBを超えないとしている。測定結果は、全銘柄とも、標準を満たした性能であった。

また、鳴動時間の表示は11銘柄にあった。測定結果は、11銘柄は20秒から30秒の範囲であったが、1銘柄は、そのほぼ2倍の60秒であり大きな差がみられた。表示値と測定値は、ほぼ同じであった。



(※2) (社) 日本防犯設備協会技術基準；協会が定める任意の基準で、防犯機器類の性能などの基準。

(4) 検知器感度

3 試験球（鋼球・木球・ゴム球）による試験結果（下表）は、3 試験球とも敏感に感知するもの、また、3 試験球とも感知せず、ガラスを実際に破壊しないと感知しないものなどがあり、感知センサーの性能に大きな違いがみられた。

これらの違いは感知センサーが振動の圧力の大きさを計測するだけのものや、周波数選択^(※3)など電気的な処理を施しているものなどによって異なると考えられる。

先の仕様で分類した検知種類「振動」「衝撃」「破壊」と今回のテスト結果とを照合してみると、必ずしも一致はしないが、大まかに「振動」は3 試験球とも感知するもの、「破壊」は3 試験球とも感知しないもの。また、「衝撃」は鋼球・木球には感知するがゴム球には感知しないものとみることができる。

(※3) 周波数選択；ガラスが破壊する際に生じるガラス固有の振動周波数のみを検知する。

		No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10	No. 11	No. 12
検知種類		振動	衝撃	振動	振動	振動	振動	振動	衝撃	衝撃	振動	破壊	破壊
感度設定		Hi low	無	無	無	無	無	無	無	無	無	高 低	無
感知した距離 (cm)	鋼球	50 50	30	50	50	50	50	50	50	50	50	—	—
	木球	50 50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	—
	ゴム球	50 50	—	50	—	50	10	50	—	—	10	—	—

注) 表中の—印は、どの距離でも感知しなかったことを示す。

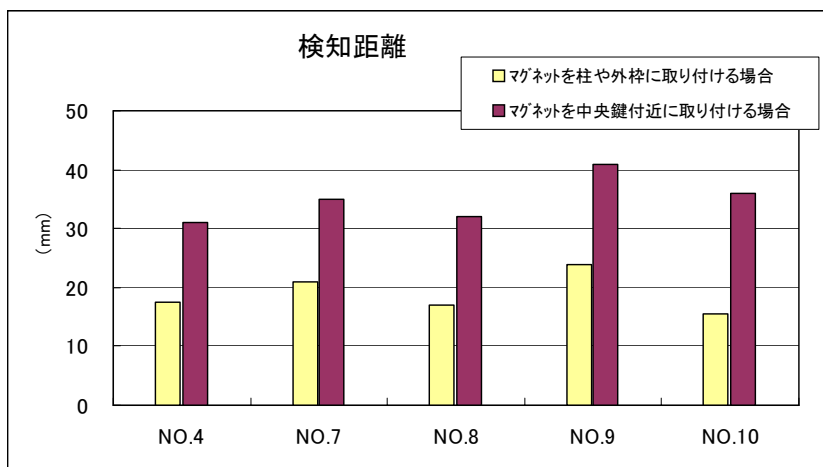
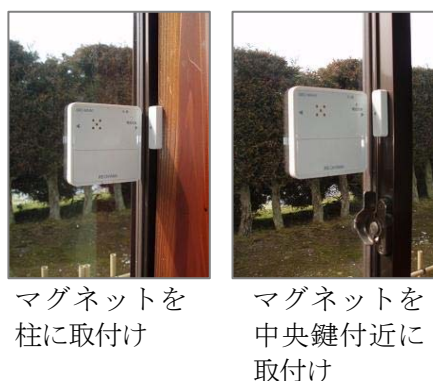
試験方法；アルミ枠付きガラスを水平に置き、コーナー部付近に本体を取付け、その箇所より

10cm、30cm、50cm 離れた位置（ガラス面）に3 試験球（鋼球；直径 5mm・0.5g、木球；直径 30mm・6.6g、ゴム球；直径 30mm・11g）を 50cm の高さより自然落下させる。

(5) マグネット検知距離

付属マグネットにより「開閉」を検知する 5 銘柄は、マグネットを柱や外枠に取り付ける場合およびマグネットを中央鍵付近に取り付ける場合も、本体の移動が 50mm 以内の早い段階で検知し、参考とする標準の 7~200mm を満たしていた。マグネットを中央鍵付近に取り付ける場合は本体がマグネットを横切り交差することから、マグネットを柱に付ける場合より若干長くなる。侵入者は

鍵付近を狙っていることもあり、マグネットは本体が他方の窓ガラスに接触しない限り中央鍵付近に取り付けるのが良い。本体とマグネットを離しすぎると機能しないものや、マグネットを外して本体単独では使用できないものがある。取扱説明書をよく読んで取り付けることが必要である。



(6) 接着強度

参考とする標準では、本体をガラス戸に固定し、10kg の荷重を 1 分間加えて剥離しないこととしているが、測定結果は、2 銘柄は標準を満たしていなかった。長期間に直射日光や四季の温度変化などを受けることから、途中で脱落などしないよう十分な接着性能を保つのが望ましい。

5 消費者へのアドバイス

窓ガラス用防犯アラームは、あくまでも侵入者への威嚇や周囲に知らせる目的のものです。防犯の基本は犯罪者の侵入を未然に防ぐことです。そのためには、「地域ぐるみの防犯運動」を進めるとともに、侵入者を防ぐ防犯性能の高い建物部品（CP部品と呼び、ドア、窓、シャッター、鍵などにおいて、一定の防犯性能を示す。「防犯」Crime Prevention の頭文字を図案化した、CPマークが表示されている。）や防犯設備（防犯カメラシステム、センサー付きライトなど）を活用するなどの取り組みが大切です。

(1) 窓ガラス用防犯アラームの購入時に留意すること。

- ① 窓ガラス用防犯アラームは、ガラスが破壊したときや大きな衝撃が加わった時に感知し、アラームが鳴動するのが基本ですが、鳴動時間や感度など本体の性能にずいぶん差があります。取り付けたい窓に合わせて、必要とする性能や大きさを確認して選びましょう。
- ② 電池交換時期を知らせるもの、「警戒中」などの表示があるものを選ぶとよいでしょう。
- ③ マグネットが付属し開閉でもアラームが鳴動するものもありますが、開け閉めの多い窓では、その都度解除、警戒の切替えが必要です。また、本体単独では使用出来ないものもあります。このことを考慮して購入しましょう。

(2) 窓ガラス用防犯アラームの取付け、維持管理で留意すること

- ① 取扱説明書をよく読んで、取付け位置は本体が窓の開閉時に接触しないことを確認して、スイッチ切替えおよび電池交換がしやすい高さを選びましょう。
- ② 定期的に正常に作動するか、電池が切れていないかを確認しましょう。